

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

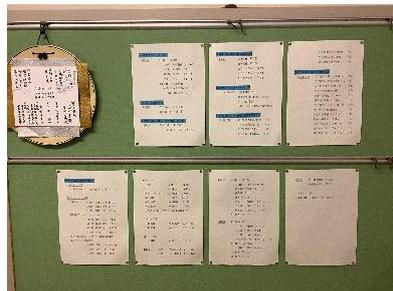
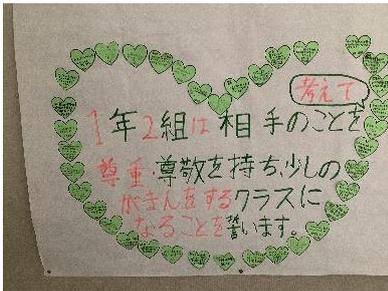
不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

生徒が安心して学校生活を送り、授業を受けられるように《学習編》と《生活編》に分けて各7項目の学校スタンダードを作成している。これを実行できれば学校生活がより楽しく充実したものになるという内容である。生徒自身が一人1台端末を使用して5段階で取組状況を振り返り、入力できる仕組みである。このように生徒自身が学習や生活について振り返ることで、学校生活のリズムを身に付けることができるよう工夫している。

学校行事や生徒会活動が盛んで、運動会では部活動対抗リレーなどレクリエーション的なプログラムも組まれている。生徒会役員が中心となって行われる生徒朝礼では、生徒会長や各委員会委員長が発表し、発表内容はより良い学校を作っていこうという意気込みが感じられるものであった。

部活動の加入率も高く、放課後は校庭、体育館、各教室で活気ある取組が行われている。各部活動の大会での成果は朝礼で報告、表彰されるが、職員室前や体育館前にも掲示され、各部活動の励みになっている。



【取組2】(B中学校)

多くの教科でクラスを8~10程度のグループに分け、1つの学習課題について司会者を決めてグループ討議をし、発表者がクラス内で発表するとともに、記録者が討議内容を整理し、レポートを制作して提出するという授業の形式を取り入れている。グループ内ではそれぞれの意見を尊重しながら、まとめていく作業が重視され、役割分担をローテーションすることによりどの生徒も責任感と実行力を身に付けることができる。

【取組3】(A中学校)

第1回生活意識調査の結果を受けて不登校対応巡回教員が不登校に関する校内研修会を行った。十分な研修時間を確保するため、2学期の前日準備の日に朝9時から実施した。生徒アンケートの結果の分析と今後の対応に加え、4月に行われた不登校対応巡回教員連絡会で受けた研修を基に説明を進め、「生徒が学校で安心できる状況」、「魅力ある学校づくり」の大切さを参加者と共有し有意義な研修会になった。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（C中学校）

管理職・SC・心理士・SSW・特別支援教育コーディネーター・不登校担当教員・生活指導主任・養護教諭・各学年の教員・不登校対応巡回教員で隔週に実施。専門的な知識と経験をもつ心理士やSCの考えを学校やSSWに共有できる有意義な会となっている。当該生徒への支援について多面的に検討している。

アウトリーチによる支援（C中学校）

担任・不登校担当教員・SSW・不登校対応巡回教員が協力して家庭訪問を行っている。保護者の来校が困難な家庭もあるので、家庭訪問することで当該生徒や保護者と定期的に面談する機会をつくることを心がけている。訪問を重ねることにより学校と家庭のきずなが少しずつ強くなることを目指している。

校内別室における支援（B中学校）

利用するにあたって面談で校内別室を利用するルールを説明し、当該生徒の状況に応じた目標を設定してから、利用を開始している。支援員は4人で、2人が5日間常駐できるようシフトを組んでいる。開室時間は午前8時30分から午後3時20分までとし、登下校の時間は自由に設定し、給食を食べるよう勧めている。登校時には職員室に記録ファイルを取りに行き、校内別室の白板に今日の予定を書く。自ら立てた計画に基づいて学習し、ファイルに記録する。下校時に職員室で学年教員にサインをもらって下校する。校内別室が教室と離れすぎないよう配慮されている。



デジタル機器を活用した支援（B中学校）

校内別室に登校している生徒を対象にオンライン授業を実施した。オンライン授業を希望する3年生に、授業の様子を配信し、学習内容が難しいと感じる場合には、不登校対応巡回教員、同じ教科の他の教員、校内別室の支援員が支援して、分かりやすく補足説明を行うなどの支援を行った。

関係機関との連携（D中学校）

SC・SSW等と協力しながら積極的に関係機関と連携している。関係機関とつながって、支援の充実に向けて支援会議で話し合い、保護者の了承を得ている支援を行っている。教育支援センター・児童相談所・生活援護課・保健士・精神保健福祉士・公共施設等と連携をとっている。

成果

- ・昨年度の夏期休業日後校内別室を利用していた生徒が、今年度4月後半から教室に復帰した。
- ・校内別室の利用生徒が移動教室や修学旅行に参加した。

課題

- ・個別の支援計画を作成し、指導方針を学校全体で共有し実践する。
- ・オンライン授業の実施方法を工夫し受講する生徒の数を増やす。